

## 平成27年度 神奈川県立足柄高等学校 学校評価実施報告書

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
I 生徒の潜在的な力を最大限伸ばすために、新教育課程の円滑な推進を図り、生徒一人ひとりの個性・適性・能力・環境に対応した教育活動を展開する。	<p>1 英語・数学の小集団、習熟度別授業を充実させ基礎学力の定着のみならず、発展的・応用的な学習への支援を充実する。</p> <p>2 総合的な学習の時間の内容を精査し、地域の伝統文化を理解し大切にすることを養う。</p> <p>3 生徒の現状を踏まえながら新教育課程の課題解決に向けて検討を重ねる。</p>	<p>1 小集団・習熟度学習を実施することで、参加意識の向上が図れたか。基礎基本の定着ならびに発展的・応用的な学習支援が実践できたか。朝読書や教科指導等を通して「読解力」の育成を図れたか。</p> <p>2 外部教育力等を積極的に活用する機会を設定できたか。</p> <p>3 新教育課程が生徒の現状と進路希望に適合しているか。</p>	<p>1 小集団での学習により、生徒とのコミュニケーションがとれ、個に応じた指導ができた。理解度に応じて、年度内に2回クラス編成し直すことで、基礎学力の定着と応用力の伸長を図ることができた。昨年度よりも朝読書の時間を確保し、図書館で生徒に「読書感想カード」を書かせることにより文章表現力の向上が図れた。</p> <p>2 相模人形芝居の他にも外部講師の協力を得て、充実した内容の講座を実施し、生徒の意識を高めることができた。</p> <p>3 現状では、進学希望の多い生徒に対応した教育課程となっており、進学する分野にも適合している。</p>	<p>1 小集団学習の利点を活かした効果的な参加型授業を探究し、組織的な授業改善をする必要がある。「読解力」の向上を図るため、朝読書の時間を確保することを継続し、図書館では生徒の興味をひく書籍を選定するなど意欲喚起に向けて工夫する。</p> <p>2 総合的な学習の時間の年間計画を検証し、地域や時勢に適応した内容を検討する。</p> <p>3 多様な進路希望に適応し、必要十分な条件を満たせるように検討を継続する。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館の整備の手伝いをPTA本部から呼びかけて、ボランティアを募集するのもよい。(学校評議員)</li> <li>朝読書を実施している高校は少ないと思う。教室が落ち着いた雰囲気になり、授業への集中力が高まるので継続してほしい。</li> <li>ボランティアの協力で図書館に飾り付けをするなど、先行している小・中学校を参考にして入りやすい雰囲気づくりを工夫する。</li> <li>総合学習の講師を探すのであれば、南足柄市の生涯学習課に名簿があるのではたらきかけをしてはどうか。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小集団・習熟度学習により、生徒一人ひとりの学習への取組状況の把握や個に応じた指導ができたと考える。生徒に達成感を実感させ、主体的な学習態度を習慣化させるためには、今年度の取組を検証し、組織的な授業改善を推進する。</li> <li>朝読書は定着し、授業への移行が円滑に行われた。(改善方策等)</li> <li>授業では学習の「ねらい」を明確にし、振り返りを取り入れるなどして、各自が到達度を確認しながら発展的に学んでいける指導方法を工夫する。</li> <li>表現力の向上を図るため、朝読書や図書館の活用をさらに推進する。</li> <li>総合的な学習の時間では、地域の人材に協力を得るなどして、各学年のテーマに即した講演等を実施する。</li> </ul>
II 生徒の諸活動を適切に支援しながら、自他ともに認め合う心を育成し、豊かな人間性の形成を目指す。	<p>1 補習・講習等に学校組織として取り組む。</p> <p>2 進路相談日の効果的な活用を目指す。</p> <p>3 課題を抱える生徒や支援が必要な生徒に対する情報を共有し、組織的な教育相談体制の充実を図る。</p> <p>4 教育相談コーディネーターを中心としたケース会議の実施等により、学習環境を整える。</p>	<p>1 長期休業中の補習・講習等を活用できたか。</p> <p>2 進路相談日を活用して生徒の多様な進路希望に学校全体で対応できたか。</p> <p>3 情報提供は時期、内容などが適切だったか。生徒の相談に適切に応えられたか。保護者との連絡を密に行うなど、生徒の個別事情を把握して指導できたか。</p> <p>4 ケース会議等を通して学校全体として教育相談体制の充実が図れたか。</p>	<p>1 夏期講習は、昨年度より5講座増の45講座に、延べ514名の生徒が参加し、基礎的・発展的学習に取り組んだ。</p> <p>2 個別の進路相談に加え、3学年の面接指導やセンター試験のリスニング対応の指導に活用できた。</p> <p>3・4 担任・学年担当・教科担当・所轄グループ・教育相談コーディネーター・スクールカウンセラーが必要に応じて連携し、ケース会議等で情報共有を図り、個別に支援の必要な生徒・保護者に対して教育相談体制を速やかにつくることができた。</p>	<p>1 参加生徒は昨年度比で、約18%減であった。来年度は、参加数が増えるよう講座内容や勧誘方法等を工夫する必要がある。</p> <p>2 進路相談日については、随時の個別相談に加え、今年度のように生徒のニーズに対応した指導内容を計画する。</p> <p>3・4 様々な課題のある生徒と保護者の教育相談に学校全体で対応できる体制をさらに充実させる。スクールカウンセラーだけでなく、協力の得られる外部機関との連携をさらに深める必要がある。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏期講習は継続して実施してもらいたい。参加率を高めるために、保護者からも声かけをしていきたい。(学校評議員)</li> <li>学校生活で困り感のある生徒や悩んでいる保護者の相談・支援体制づくりについて、スクールカウンセラーとの連携も含め、インクルーシブ教育に接続させるために教員サイドの課題意識を共有化する必要がある。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長期休業中の補習・講習については、生徒の学習到達度や進路希望に応じた講座を開講し、十分な対応ができた。</li> <li>進路相談日が設定されていることで、個別相談が行えた。</li> <li>生徒・保護者の相談に応じる体制づくりはできたと考える。(改善方策等)</li> <li>補習・講習の参加者を増やすため、講座内容等を工夫する。</li> <li>進路相談を充実させるため、最新の情報収集と活用に向けた整理・提供を図る。</li> <li>校内の相談体制だけでなく、外部の関係機関との連携をより一層充実させる。</li> </ul>

<p>Ⅲ 生徒一人ひとりの興味・関心・意欲を大切にし、より高い目標に向け努力する姿勢を育み、確かな学力向上の推進を図る。</p>	<p>1 生徒が学習に主体的・意欲的に取り組み、家庭学習の習慣化を念頭において授業展開の改善と工夫を図る。 2 生徒による授業評価や学習状況調査を踏まえ、授業改善に向けた校内研究授業体制の整備と拡充に努める。 3 生徒一人ひとりの多様性を尊重した授業展開を工夫し、効果的な小集団、習熟度別授業の推進を図る。</p>	<p>1 生徒一人ひとりが主体的に考え積極的に学習に取り組む姿勢を身につけることができたか。生徒一人ひとりの学びと成長のために、自習室の効果的な活用を含め、家庭学習と一体化した授業改善・工夫がなされたか。 2 授業評価等の分析を生かし、授業改善につなげることができたか。校内研究授業の充実を推進できたか。 3 生徒の理解度に応じた効果的な授業展開がなされたか。</p>	<p>1・2 生徒による授業評価アンケートをもとに各教科で協議検討を重ね、研究授業を実施して他教科や外部からの参観者を交えての研究協議を行い、教科内で課題の共有ができた。自習室は空調設備を含めた環境整備を進め、生徒の自学自習に向けて活用を促した。 3 観点別評価を5段階に変更することにより、生徒の取組状況や到達度を子細に評価でき、きめ細かな指導に結びつけた。</p>	<p>1・2 自学自習の習慣化のためには、今後も課題や確認テストなどの継続した工夫が必要である。自習室の学習環境を整ったので、生徒が利便性を実感できるようはたらきかけをしていく。 3 観点別評価については、一人ひとりの生徒の学習指導に役立てられるよう今後も検討を加える必要がある。</p>	<p>(学校評議員) ・授業改善は、講義中心からアクティブラーニングなどを取り入れて、どれだけ生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばすかが課題である。中学校との研究授業は定着してきたが、さらに授業を公開して誰もがいつでも参観できる環境づくりをするのも一方法になるのではないかと。 ・学校の授業だけでなく、資格試験等にもより積極的に挑戦させてみてはどうか。</p>	<p>(学校評価) ・生徒による授業評価をもとに各教科で検討し、研究授業では他教科や外部からの参観者を交えての協議を行うことにより、授業改善に向けた方向性は探求できたと考ええる。 ・観点別評価を5段階にすることにより、生徒の取組状況や到達度をより細かく評価でき、学習指導に結びつけられた。 (改善方策等) ・生徒の思考力・判断力・表現力を向上させるための授業をできるだけ工夫して実践し、小集団・習熟度別授業の特性を活かした授業改善に日常的に取り組む。 ・外部の資格試験等を目標にさせて、学習の成果を確認する。</p>
<p>Ⅳ 勤労観・職業観を育成し、規範意識の涵養を推進するとともに、自らの進路を選択し、社会の一員として自立するための実践的な能力を支援する。</p>	<p>1 就労体験等を通して、勤労観や職業観を涵養し、社会に貢献する態度を育成する。 2 進路相談等様々な働きかけを行うことによって、自らの進路を選択する能力を育成する。 3 外部教育力を活用し、生徒一人ひとりの進路希望に対応して、適切な進路指導を提供する。 4 生徒の主体的な活動を支え、特別活動の活性化を図り、コミュニケーション能力を育成する。 5 責任ある行動力と公正な判断力を育み、基本的な生活習慣と規範意識の涵養を推進する。</p>	<p>1 インターンシップや看護体験を通して、生徒が将来の職業について主体的に探索する活動を支援することができたか。 2 生徒一人ひとりの進路希望に応じたきめ細かな指導を実践し、個々の資質・能力に応じた進路選択ができたか。 3 キャリア教育実践プログラムを計画的に実践できたか。講演会等のあり方を見直しながら効果的な指導が実現できたか。 4 自分の考えを的確に伝え、他人の考えや気持ちを受け止めるコミュニケーションスキルの育成を図ったか。 5 「あいさつ」の励行や「遅刻をしない」などの社会生活をおくる上で必要な基本的な生活習慣の確立に努めたか。交通ルール・マナーの遵守など規範意識の涵養に努めたか。</p>	<p>1 インターンシップで16名が就業体験し、看護体験は昨年比12名増の32名の生徒が参加し関心の高さが際立った。 2 昨年と同様に6月の面談を全学年で実施し、進路相談に対応した。実力テストや看護医療・公務員等の業者による模試を実施し客観的な判断材料とした。進路コーナーの資料は常に更新し受験問題集等の充実を図ることにより、利用する生徒が増えた。 3 1年では進路講演会や大学見学会で進路意識を高めた。2年ではオープンキャンパス参加や大学等模擬授業を通して、生徒に進路情報を集めさせた。3年では希望進路別に各種説明会を実施し、受験指導等に役立てた。「フードデザイン」「発達と保育」で専門学校授業を3年が25名体験した。 4 学校行事の企画・運営にあたり、生徒会・各種委員会等が連携して円滑に進められるよう指導助言し主体的に活動できた。 5 学校生活全般において「あいさつ」や「正しい身だしなみ」についての生活指導を実施し、遅刻については「遅刻カード」を活用して一定の定着を見た。交通ルールやマナー遵守については、定期的に登下校指導に職員が立ち、指導した成果が現れた。11月の高校生交通安全大会では、交通安全委員の生徒が発表し、交通安全の意識を高める機運になった。</p>	<p>1 インターンシップや看護体験に参加する生徒の増員を図るとともに、受け入れ先となる施設等の開拓を進める必要がある。 2 生徒・保護者に向けて最新の進路情報を提供するとともに、個別の進路支援に対応できるように教員の研修を充実させる。学年ごとに進路計画が進めるための資料提供の場として進路コーナーや掲示板の活用方法を工夫する。 3 生徒一人ひとりの進路意識を高めるため、1回でも多くの模擬授業やオープンキャンパスに参加させ、体験学習を充実させていく。就職希望の生徒についても早期から企業説明会等への参加をはたらきかける。 4 生徒間でのコミュニケーションスキルを向上させるため、自主的に企画・運営できるような条件づくりを工夫する。 5 ルールを守ることの大切さを全職員で繰り返し指導し、足柄高校の生徒としての自覚を高める。遅刻については、家庭とも連携して粘り強く指導する。登下校時の交通安全指導については、地域住民の支援もいただきながら臨機応変な対応も含め継続して行っていく。</p>	<p>(保護者) ・進路相談では、教師の思いやりあることばに子どもが意欲的になり、目標を達成したことがあったので、意識して励ましてやってほしい。 (学校評議員) ・南足柄市の幼・小・中との連携を活用して、キャリア教育の推進を図ってみたいと。 ・通学路で声かけをする素直に応じるなど、学校の落ち着いた雰囲気を感じられる。交通安全についても、ごく一部にルールを守らない生徒がいることで、小・中学生に悪影響が及ぶことが予想されるので、さらに指導してほしい。</p>	<p>(学校評価) ・学年に応じて、生徒・保護者に進路情報を提供したり、進路講演会や説明会、体験授業などを経験させたりすることにより、キャリア教育実践プログラムに則った指導ができ、一応の成果が得られたと考える。 ・学校行事を実施する過程で、時間や会場等の制約はあったが、関係職員が臨機応変に対応することにより、生徒同士が協力して円滑に進めることができた。 ・登校時の交通マナーでは、保護者・地域の支援や協力もあり、一部に改善の余地はあるが、一定の効果が得られた。 (改善方策等) ・インターンシップ参加希望者を確実に受け入れる施設と条件整備をする。 ・オープンキャンパスや体験授業等を通して、生徒が主体的に進路を選択し、目標に向けて計画的に取り組めるようにする。 ・学校生活に限らず社会全般にわたる守るべきルールやマナーについての指導に学校全体で取り組む。特にネット社会のルール・マナーについての意識向上に向けた指導を行う。</p>

<p>V 家庭・地域・関係機関との連携を一層深め、地域の持つ伝統と文化を理解しつつ、地域へ貢献する「地域とともに歩む」学校づくりを推進する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 新規事業の導入によりPTA活動の一層の活性化を図るとともに、家庭・地域・関係機関との連携を深める。</li> <li>2 地域貢献活動等を通じて、「地域とともに歩む」学校づくりを推進する。</li> <li>3 学校行事や地域の行事等を通して生徒同士の交流及び地域との連携を図る。</li> <li>4 中学生やその保護者、地域・関係機関への情報発信に努め、よりよい学校作りを目指す。</li> <li>5 近隣の幼稚園・小・中学校や特別支援学校等との教育交流を通して、ボランティア活動等に対する積極的な取組への意識の啓発を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 スケアードストリートによる交通安全教室や業者による自転車点検等により、PTA活動の一層の活性化を図るとともに、家庭・地域・関係機関との連携を深めることができた。</li> <li>2 地域貢献活動等を通じて、「地域とともに歩む」学校づくりを推進できた。</li> <li>3 外部諸機関と連携し、相互交流を図った。また、地域行事に積極的に参加した。</li> <li>4 説明会、ホームページや情報紙を通して、適切に情報を発信することができた。説明会においては実施時期、方法等の改善、工夫を行った。</li> <li>5 異校種間交流に積極的に取り組み、ボランティア活動への参加が増えた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 5月にPTAと業者による自転車点検を実施し、改善を促す効果が得られた。10月にはPTAと共催で業者によるスケアードストリート式交通安全教室を開催し、体験を通じて交通安全に対する意識を高めることができた。</li> <li>2 10月にPTAと協力して大雄山駅周辺の環境整備活動を実施し、学校周辺を含めた地域清掃活動を行うことにより、地域貢献の体験をさせることができた。</li> <li>3 南足柄市や近隣自治会からの要請により、地域のイベント(清掃活動・市民祭・成人式等)にダンス部・軽音楽部・吹奏楽部等の部活動が参加し、交流を深めた。</li> <li>4 ホームページの更新を頻繁に行い、学校としての取組や生徒の活動状況の最新情報を外部に発信した。説明会の実施ごとに提供する資料(学校案内・ポスター・説明冊子・クリアフォルダ・ロゴ入り団扇・学校紹介DVD等)を追加・改善し、常に最新の情報が提供できるよう工夫した。</li> <li>5 放送部が小学生に対して非行防止の読み聞かせを実施した。男女ソフトテニス・女子バスケットボール・女子バレーボール・卓球部他多くの部活動で近隣中学校と練習試合や大会を実施し、交流を深めた。ボランティア活動への希望者に事前指導も含めた参加支援を行った。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 PTAと連携した実践的な交通安全指導(自転車点検・スケアードストリート式交通安全教室等)をより充実させ継続して実施していく必要がある。</li> <li>2 地域清掃や環境整備については、地域貢献デー等の行事として地域と連携して行っていくのに加え、定期的に行うなど効果的な方法を工夫し、改善していきたい。</li> <li>3 関係諸機関との連絡を密にすることにより、早めの対応と円滑な運営を推進する。生徒の安全対策についても考慮する必要がある。</li> <li>4 学校の取組や生徒の活動状況について、常に最新の情報をわかりやすく提供する工夫をしていく。説明会等の行事開催が、中学校や中学生・保護者に確実に伝わり無理のない参加ができるように日程等の調整を進める。提供する資料等についても、よりわかりやすく興味を引きつけるよう改善を加える。</li> <li>5 1つでも多くの部活動が交流を図れるように日程調整を工夫して、機会を広げていく。ボランティア活動についても参加希望の生徒に機会を提供するため、様々な活動を設定していく。</li> </ol>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動はもとより、学校の雰囲気や教師の対応などは中学生・保護者の間ですぐに広まる。高校選びには重要な情報である。</li> </ul> <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアや自治会の地域のイベント等に生徒が参加してくれてとても助かっている。自治会役員は年度で交代するので、一貫したテーマやシステムづくりをして、これからの交流をしていきたい。</li> <li>・中学校や中学生にとっては、丁寧な情報を発信してくれてありがたい。高校生の普段の生活が見えるような資料は興味の度合いが高まるので、今後もお願いしたい。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAと連携してスケアードストリート等の交通安全指導の新規事業が導入できたことにより、生徒の交通安全に対する意識を大いに高める効果があった。</li> <li>・地域清掃や環境整備等の活動、及び部活動を通して地域のイベント等に参加することにより、地域に支えられ地域とともに歩む学校であることを多くの生徒が実感したと考える。</li> <li>・本校の取組や生徒の活動状況について、常に最新の情報を提供しよう心がけ、中学校や中学生・保護者に向けて説明会等の資料についても、わかりやすく興味をもってもらう工夫をしたことにより、志願者の理解が得られたと思われる。</li> </ul> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献やボランティア活動、部活動の地域への参加に積極的に取組み、地域とともに歩む学校づくりを推進する。</li> <li>・学校全体で中学校との連携事業を綿密かつ計画的に進めることにより、インクルーシブ教育の円滑な導入を図る。</li> </ul>
<p>VI 全職員が安全に配慮した学校運営・学校管理の改善に向けた具体的な課題を共有し、各々がその解決に積極的に取り組む。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校評価システムを活用し、業務の見直しと効率化を図る。</li> <li>2 地域・関係機関との連携を図りながら防災対策を推進する。</li> <li>3 学習環境の整備に努める。</li> <li>4 職員相互のコミュニケーションを密にして、風通しの良い学校運営に努め、職員が前向きに職務に取り組み、課題解決を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 業務を見直し、効率的な学校運営ができた。</li> <li>2 地域・関係機関と連携した防災訓練を実施した。生徒の安全を守るために、より効果的な訓練を実施することができた。</li> <li>3 学習環境の整備に努めた。</li> <li>4 職員が前向きに職務に取り組み、課題解決に努めた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 企画会議を軸にすえて、円滑に学校運営できるよう効率化を図った。</li> <li>2 南足柄市が「避難所運営マニュアル」を作成したことを受け、避難所を開設した際の使用教室を配分した。9月に防災紙上訓練、11月に火災避難訓練を実施し、防災意識と安全確保の確認を行った。</li> <li>3 体育館の耐震改修工事、音楽室の教室整備、各教室に網戸の設置、自習室に空調設備の新設など学習環境の改善を図った。</li> <li>4 風通しが良く相談しやすい職場環境づくりを心がけ、全職員が前向きに職務に取り組みの状況ができた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 グループ評価・学校評価を活用して、積極的に課題解決を図り、学校運営を推進する。</li> <li>2 災害発生時において、避難所開設から一人ひとりの職員の役割を明確にし、円滑に対応できるようにする必要がある。</li> <li>3 今後も計画的、継続的に施設の美化・補修整備を行っていく。</li> <li>4 職員間で互いに課題を共有し解決に向けて、前向きに取り組める職場環境づくりをしていく。</li> </ol>	<p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が災害時に学校滞留をした場合には、地域住民の避難は難しいと聞き、自治会でも自宅待機を検討している。地域では、緊急時高齢者などの支援が課題となっているが、高校生になんらかの形で援助してもらいたい。</li> <li>・「魅力と特色ある県立高校づくり」の生徒や保護者のアンケートは、学校独自に自由記述欄を設けるなどして、より具体的な評価を教員にフィードバックすれば、問題点が共有できて、学校経営に役立つものと考えられる。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画会議にグループでの取組を提示することにより、情報の共有化を図ることができた。</li> <li>・南足柄市の「避難所運営マニュアル」に基づき、災害時における避難所としての役割の確認ができた。</li> </ul> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「魅力と特色ある県立高校づくり」等の生徒・保護者のアンケートから本校における課題を職員間で共有し、学校運営の改善に向けて取り組む。</li> <li>・災害時における学校の地域に果たす役割について、職員と生徒がともに考え、防災対策を検討する。</li> </ul>